

# ホシデン株式会社

## 2023年3月期 決算説明会

**決算説明の概要を追記いたしました。**

- ・第1部 決算説明会資料の解説
- ・第2部 代表取締役社長 古橋健士からのメッセージ
- ・第3部 主なQ&A

**2023年 5月17日10:30開催**

# 第1部

## 決算説明会資料の解説

## 2022年度連結決算概要

全体の売上高は、前年比33.5%増(金額にして約696億円増)の約2,772億円となりました。主に、アミューズメント向けで約660億円の増加、移動体通信向けで約21億円の増加、その他向けで約27億円の増加がありました。一方、輸送機器向けは約13億円の減少となりました。

利益の面では、当期は主に円安によりドル売上・ドル仕入の差が円評価で膨らんだことやドル仕入在庫の評価益が発生したこと等により、営業利益は前年比34.3%増で金額では約40億円増の約158億円となりました。営業利益での為替による影響はドル仕入在庫の評価益が大きな部分を占めており、これは主に第一四半期で発生しております。更に営業外でも円安による為替差益約25億円が発生したことにより、経常利益は前年比約31億円増の約190億円となりました。

(単位:百万円)

	2021年度	2022年度	伸び率
売上高	207,608	277,244	33.5%
営業利益	11,725	15,750	34.3%
経常利益	15,786	18,984	20.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	11,901	12,637	6.2%
純資産	119,533	126,753	6.0%

# 連結損益計算書及び連結包括利益計算書 概要

2023年度の売上高予想が前年比で8%減、金額にして222億円の減少となっている理由は、主にアミューズメント向けが前年比16%減、金額にして約299億円の減少となっているためです。なお、アミューズメント向け以外はすべて前年比で増加の予想となっております。販管費は前年並みを予想しております。

営業利益については、売上の減少に加えて、主に前年度発生があった円安による在庫の評価益が2023年度は発生しないと予想していることにより前年比37%減、金額にして58億円の減少となる予想です。なお、2023年度は営業外での為替差損益は発生しないと予想しており、その他の営業外収支は主に金利収入による10億円を見込んでおります。結果、経常利益及び税前利益は110億円、純利益は85億円を予想しております。

(単位:百万円)

	2021年度	2022年度	増減	2023年度 通期予想
売上高	207,608	277,244	69,636	255,000
売上原価	185,884	251,487	65,603	235,000
販売費及び一般管理費	9,999	10,007	8	10,000
営業利益	11,725	15,750	4,025	10,000
為替差損益	3,558	2,490	△1,068	-
その他営業外収支	503	743	240	1,000
経常利益	15,786	18,984	3,198	11,000
特別利益	598	142	△456	-
特別損失	78	600	522	-
税金等調整前当期純利益	16,306	18,527	2,221	11,000
法人税等合計	4,404	5,889	1,485	2,500
親会社株主に帰属する当期純利益	11,901	12,637	736	8,500
包括利益	13,469	14,477	1,008	-

## 連結貸借対照表 概要

資産合計は、当期末は主に、流動資産の増加により、前期末比で約84億円増加しています。流動資産の主な増減要因は、現預金の増加が約76億円、売掛債権等の増加が約90億円、減少方向では主にアミューズメント関連の棚卸資産の減少が約102億円となっております。

負債の部では、流動負債が約16億円増えていますが、主な要因として、仕入債務が約21億円、未払法人税等が約7億円増加しており、その他流動負債で約14億円減少しております。

純資産は約72億円増加し、自己資本比率は前期末から0.7ポイント増加し70.4%となっております。

(単位:百万円)

	2022年3月末	2023年3月末	増減
資産			
流動資産	145,572	151,878	6,306
有形固定資産	18,559	17,495	△1,064
無形固定資産、投資その他資産 等	7,394	10,619	3,225
資産合計	171,525	179,993	8,468
負債			
流動負債	36,305	37,919	1,614
固定負債	15,686	15,319	△367
純資産合計	119,533	126,753	7,220
負債純資産合計	171,525	179,993	8,468

# 連結キャッシュフロー計算書概要

2022年度の営業活動によるキャッシュフローは、主に税金等調整前当期純利益約185億円があったことから、約207億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュフローは、定期預金の増減によるもの、長期性預金の預入によるもの、有形固定資産の取得によるもの等により、約98億円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュフローは、自己株式の取得及び配当金の支払により約74億円の支出となりました。

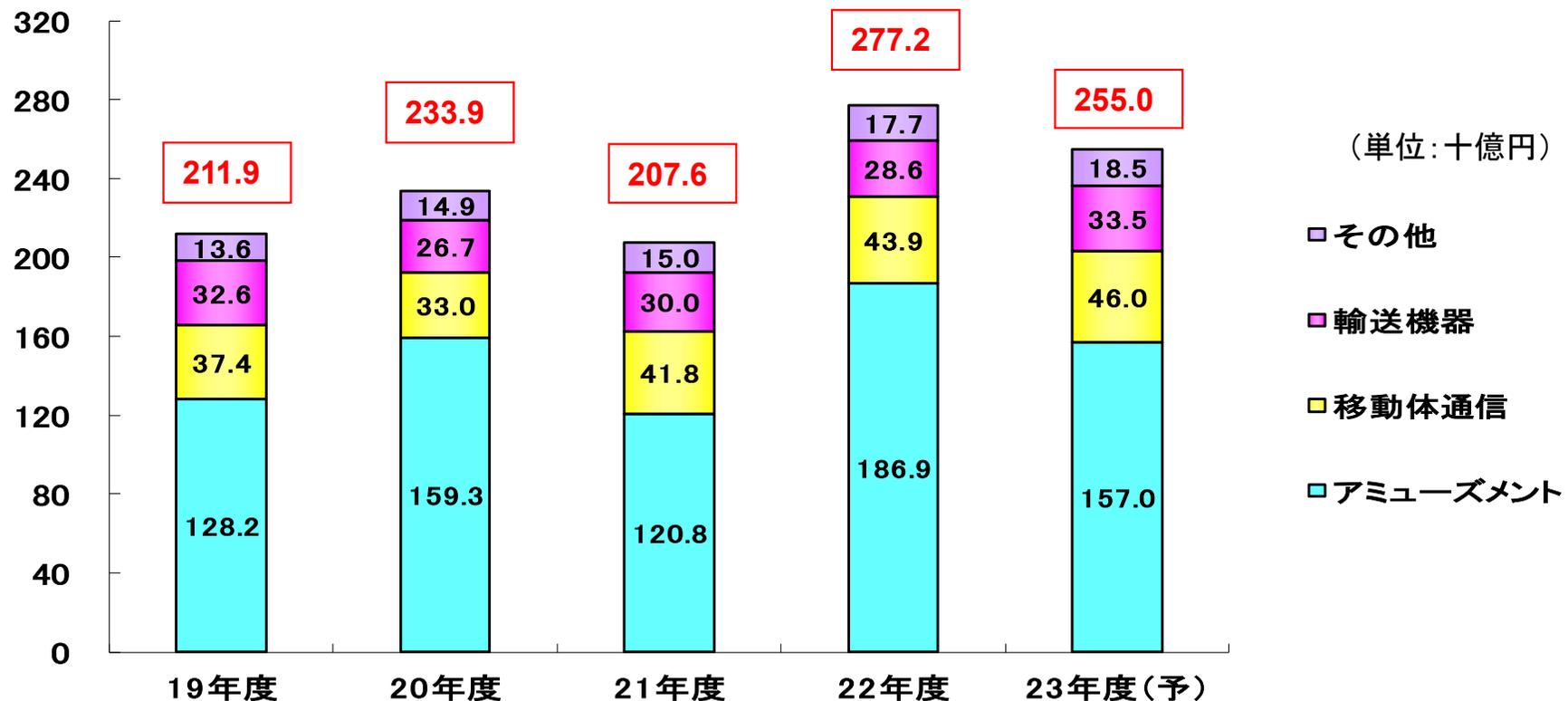
(単位:百万円)

	2021年度	2022年度
営業活動によるキャッシュフロー	△1,230	20,765
税金等調整前当期純利益	16,306	18,527
減価償却費	3,185	3,385
売上債権、仕入債務、棚卸資産の増減	△16,042	3,720
その他	△4,679	△4,867
投資活動によるキャッシュフロー	△3,059	△9,852
定期預金の増減	275	△3,733
長期性預金の預入による支出	-	△3,000
有形固定資産の取得による支出	△3,823	△2,818
その他	489	△301
財務活動によるキャッシュフロー	△3,748	△7,437
自己株式の取得による支出	△1,775	△3,000
配当金の支払額	△1,411	△4,287
その他	△561	△150
現金及び現金同等物に係る換算差額	995	62
現金及び現金同等物の増減	△7,042	3,538
現金及び現金同等物の期末残高	62,479	66,017

<p>全体</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 全体としては売上、営業利益とも前年比アップ。特にアミューズメント向け販売の増加が顕著。</li> <li>▪ 円安による影響で売上、営業利益ともに増加。営業利益における円安の影響は60億円弱を見込む。</li> <li>▪ 表示部品セグメントは販売大幅減により約6億円のセグメント損失。</li> </ul>
<p>アミューズメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 前年は工場の一時的稼働停止があったが、今期は稼働停止がなく、また半導体不足の緩和もあり、売上は前年比55%の大幅増加。</li> </ul>
<p>移動体通信</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 主力顧客向けの販売が堅調であり、売上は前年比5%の増加。</li> </ul>
<p>輸送機器</p>	<p>機構部品セグメント及び音響部品セグメントでは売上増加。表示部品セグメントの主要顧客向けタッチパネル販売がモデル終了により大幅減少。結果、輸送機器全体の売上は前年比5%の減少。</p>
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 医療・健康関連の販売は減少したが、前年下期から販売を開始したオーディオ機器に使用するマイクは販売増加。結果、その他全体の売上は前年比19%の増加。</li> </ul>

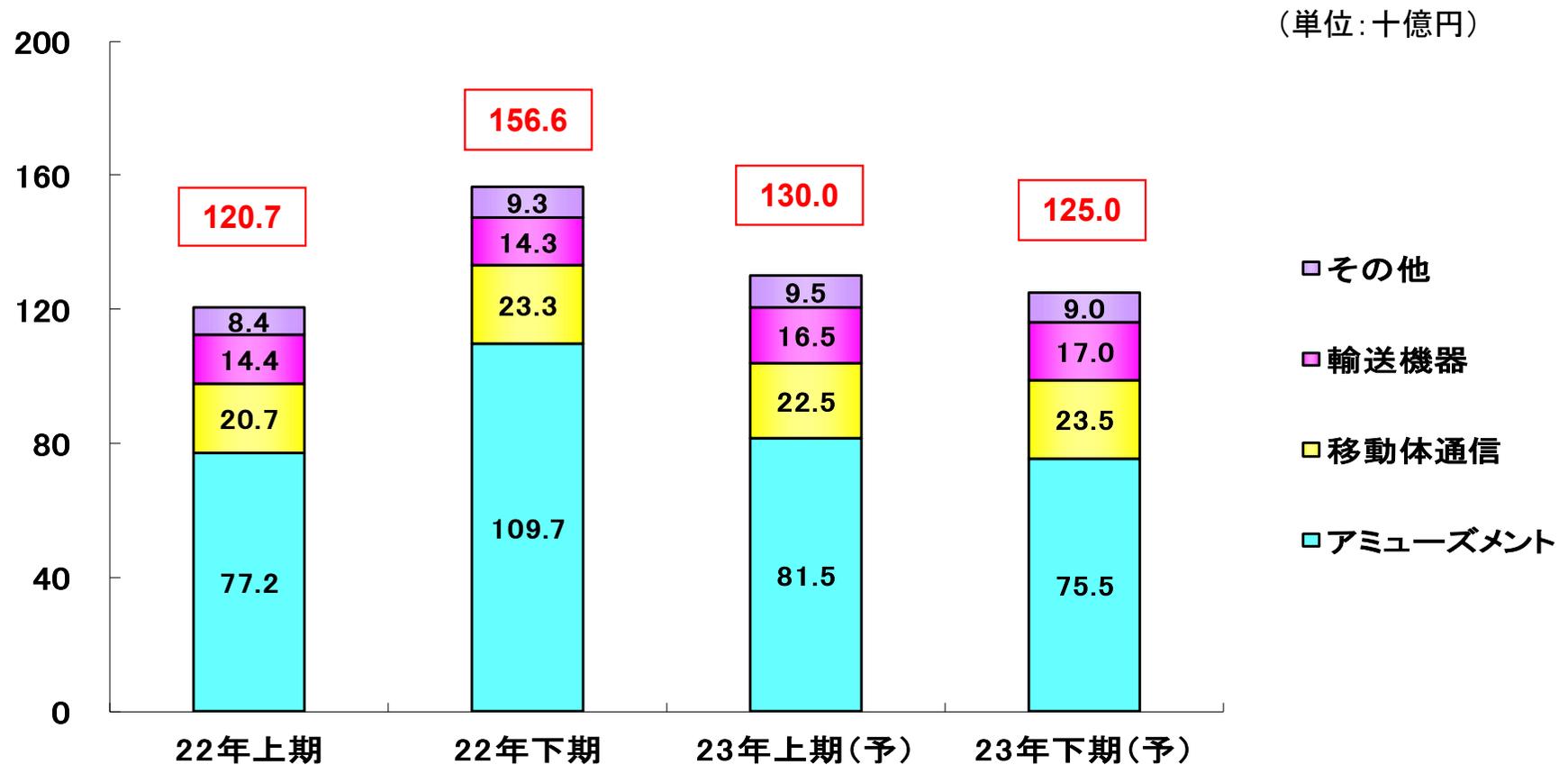
## 2023年度通期予想：使用機器別売上高

2023年度の使用機器別売上高について、全体では前年比で8%減の2,550億円を予想しています。使用機器別の内訳では、アミューズメント向けは前年比16%減の約1,570億円、移動体通信向けは市場全体が鈍化傾向にあるものの、主要顧客の新製品需要に牽引され前年比5%増の460億円、輸送機器向けは一部顧客向けのタッチパネル販売終了により表示部品が減少するものの、機構部品と音響部品の増加を見込んでおり、輸送機器全体としては前年比17%増の335億円、その他向けは医療・健康向け及びAV機器向け等の増加により前年比4%増の185億円を予想しています。



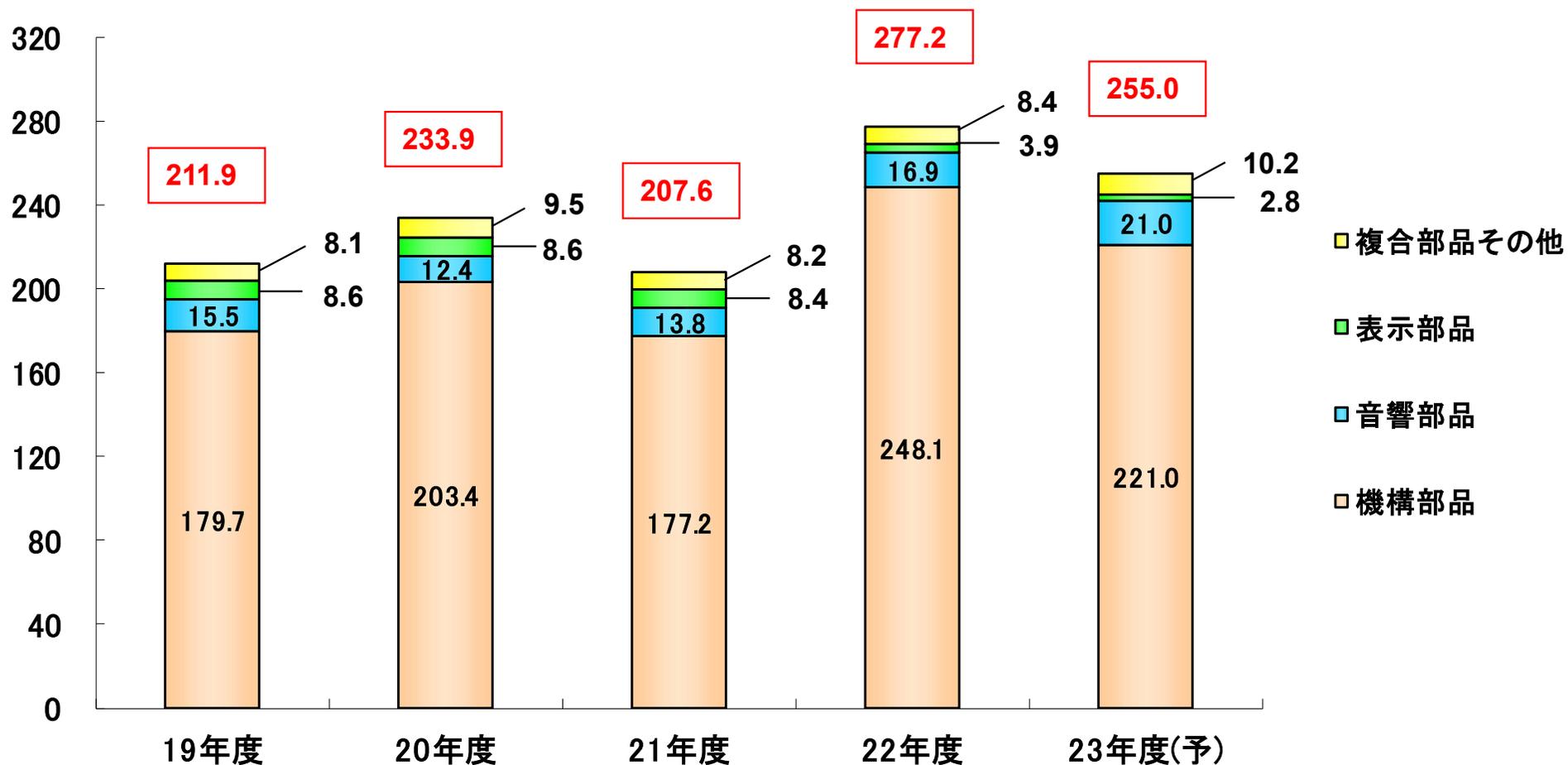
# 2023年度 使用機器別売上高（半期毎）

2023年度の上期と下期の違いは、主にアミューズメント向けを上期815億円、下期755億円と想定している点です。なお、移動体通信向け及び輸送機器向けは上期よりも下期の方が少し売上が伸びると予想しています。



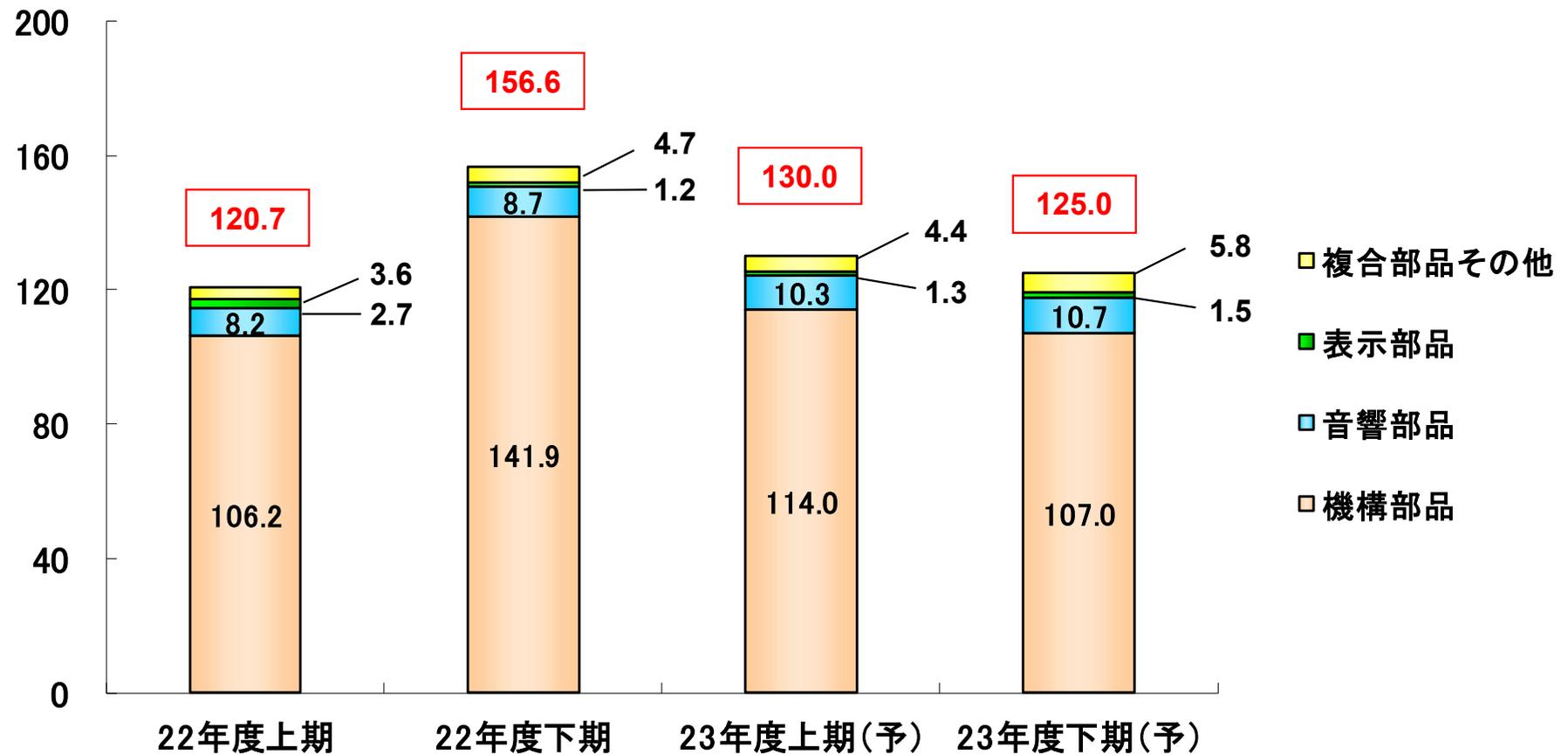
# 2023年度通期予想：部門別売上高

(単位：十億円)



# 2023年度 部門別売上高 (半期毎)

(単位:十億円)



# 2023年度通期予想のポイント

売上	<ul style="list-style-type: none"><li>・ アミューズメントは前年比16%減と想定。</li></ul> <p>移動体通信は市場全体が鈍化傾向にあるものの、主要顧客の新製品需要に牽引され前年比5%増を想定。</p> <p>輸送機器については一部顧客向けのタッチパネル販売終了により表示部品が減少するものの、機構部品と音響部品の増加を見込んでおり、輸送機器全体としては前年比17%増を想定。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ その他については、医療・健康向け及びAV機器向け等の増加により前年比4%増を想定。</li></ul>
利益  減収見込の 要因	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 前期は円安による利益押上げ効果があったが、今期は為替変動がないと想定している。想定レート134円/ドル。</li></ul> <ul style="list-style-type: none"><li>・ アミューズメント向け売上が減少。</li></ul>

## 設備投資・減価償却・研究開発

2022年度の設備投資は、期初時点では各種の新製品生産があると想定し年間で40億円を見積もっておりましたが、設備更新以外での特別な投資は殆どなく、年間で20億円となりました。

2023年度の設備投資は各種新製品の生産を想定し年間で42億円を見積もっております。

(単位:百万円)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度 (計画)
設備投資額	5,985	3,476	4,179	2,038	4,200
減価償却費	3,213	3,136	3,186	3,385	3,600
研究開発費	2,371	2,410	2,187	2,020	2,500

当社はアミューズメント向け売上の中期計画作成が非常に困難なことから、中期経営計画を社内では作成しているものの、外部への開示は行っておりませんでした。しかし、アミューズメント以外の分野だけでも、当社の成長戦略を投資家の皆様にお伝えしたく、本年7月末に発表予定の統合報告書の中でお伝えしたいと考えています。

## 発表時期

2023年7月末(予定)

当社ホームページ内の統合報告書に掲載します。

## 発表内容

- ・アミューズメント向けを除く3年間の計画（2023年度～2025年度）
- ・注力する市場：輸送機器市場、医療・健康機器市場、IoT機器市場
- ・主な開発製品

機構部品：高速伝送小型コネクタ

音響部品：車載用マイクの新製品

表示部品：車載用ディスプレイ貼合、透明ヒーター、(ペロブスカイト太陽電池)

複合部品その他：各種センサモジュール・センサユニットと無線との融合

詳しくは2023年7月末発表予定の統合報告書を御覧下さい。

## 方針

2023年5月12日発表

株主価値向上の一環として、**連結配当性向30%を維持**しつつ、2023年4月1日から2026年3月31日までの**3年間で100億円以上の自己株式の取得及び同数の消却**を実施します。

## 配当

	中間配当	期末配当	年間配当
2022年3月期	10円/株	55円/株	65円/株
2023年3月期	23円/株	48円/株	71円/株
2024年3月期(予定)	24円/株	24円/株	48円/株

注)2023年3月期の71円/株は過去最高実績

## 自己株式取得 及び 消却

2023年5月12日発表

金額:30億円(上限)

株数:160万株(上限)

消却:2023年8月31日に上記で取得した全株式を消却

当社はPBR1倍に向けた方針として、今月12日の決算発表時に本ページ上段の方針とともに各種の取組を発表しております。決算説明会資料についても、本年より当社Webサイトで公開しました。

2022年度の1株当たりの配当は、中間配当23円と期末配当48円を合わせて、年間で71円を予定しております。また、2023年度の1株当たりの配当は、連結配当性向30%となるように、中間配当24円と期末配当24円を合わせて、年間で48円を予定しております。

また、今月12日の決算発表時に本ページ下段に記載の通り、自己株式の取得と消却を発表しております。

# カーボンニュートラルに関する取り組み

過去には2014年4月に本社屋上で太陽光パネルを設置しましたが、カーボンニュートラルへの取り組みの一環として、2022年度は国内関係会社2工場で太陽光パネルを設置しました。今後も複数拠点に太陽光パネルの設置を検討していきます。また、事務所・生産棟照明のLED化や、再生可能エネルギーを使用した電力の購入、等にも取組中です。

カーボンニュートラルについては、今後も社内で意識を浸透させ、取り組みを活性化し、現状CフラットであるCDPスコアを2023年度はBマイナス以上となるように取り組んでまいります。

## CO2削減目標

- ・中期目標： 2025年度末までに原単位で2013年度比20%削減。
- ・長期目標： 2030年度末までに2013年度基準で46%程度の削減に挑戦する。

太陽光パネル設置によるCO2削減取組み			
拠点	年間CO2削減量	CO2削減率	稼働時期
ホシデン和歌山(株)	124トン	19.7%	2022年10月
ホシデン九州(株)	187トン	11.0%	2023年 2月



ホシデン和歌山(株)



ホシデン九州(株)

2014年4月より本社屋上で太陽光パネルを設置

事務所・生産棟照明のLED化、再生可能エネルギーを使用した電力の購入、等にも取組中

## CDP (Carbon Disclosure Project) スコア

2023年度はBマイナス以上を目指す

## 第2部

# 代表取締役社長 古橋健士からの メッセージ

# 2022年度の振り返り(1)

## 新型コロナウイルスの影響

これまでホシデングループでは国内・海外で新型コロナウイルスの影響を受けてきましたが、2022年度はようやく落ち着いてきました。

### 当社に関係するロックダウン

- ・2020年 中国広東省、マレーシア(稼働制限等、限定的なもの)
- ・2021年 ベトナム(3ヶ月に及ぶ厳しいロックダウン、顧客にご迷惑をおかけしました)
- ・2022年 中国青島、上海(一部の自動車メーカーにご迷惑をおかけしました)

## 2022年度の業績

### ・アミューズメント

半導体不足により第2四半期が厳しかったものの、第3四半期より調達が改善し、増産することができました。

### ・移動体通信

10～12月で消費者市場の落ち込みが始まりました。しかしながらハイエンドモデルはミドルエンド以下ほど落ち込みが大きくなく、当社は顧客とのハイエンドモデル向けビジネスが大きかったため、それほど大きな影響は受けませんでした。とはいえ、市場の冷え込みは2023年夏頃までは続くと見えています。

## 2022年度の振り返り(2)

### 2022年度の業績(続き)

#### ・輸送機器

2022年度は2021年度と比較し、各自動車メーカーの生産台数は増加しました。一方で当社の売上は前年度比4.6%の減少となりました。

これは表示部品が大きく減少したことが原因です。タッチパネルビジネスにおいて、価格競争に加えて、特定顧客の製品がライフサイクル終了となったことにより、大幅な減少となりました。このため表示部品事業のセグメントでは約6億円の赤字となり、工場の縮小を行いました。今後、これまでの製品を続けていくことは難しく、新しい製品を生産するための設備の導入を進めていますが、2023年度末まではかかる見込みです。

輸送機器の中の他のビジネス(機構部品、音響部品)は、各自動車メーカーの生産台数の回復に伴い伸びました。

### 総括

・2022年度はまずまずの売上、利益を計上することができました。

業績が良かった要因の一つは為替です。為替の影響を極力受けないようにすることを考えていますが、売上の90%以上が外貨であること、また外貨建て資産負債の期末の評価により、為替の影響はどうしても免れることはできない状況です。

・在庫について

これまで在庫を減らすよう努めてきて、2023年3月期は減少してきています。しかし、まだ適正在庫とは言えません。自動車メーカーでの生産が計画通りに進むようになれば状況は改善すると考えておりますが、この状況は今年の夏頃までは続くと予想しております。

# 2023年度について(1)

## 2023年度の業績見込み

全体として厳しくなると考えています。用途別では以下の通りです。

### ・アミューズメント

足元の受注は堅調ですが、顧客が決算で発表している生産台数計画同様に、2023度の当社のアミューズメント向け売上は16%程度は減少すると見込んでいます。

### ・移動体通信

今年2月に行われたバルセロナでの見本市によると、顧客メーカーはハイエンドモデルに注力しており、最終顧客もハイエンドに興味を持っていることがわかります。2023年度の売上は5%程度伸びると見込んでいます。

### ・輸送機器

売上を17%程度伸ばしていきます。自動車メーカーでは注文はあるが出荷できない車種が千数百万台程あると聞いています。自動車メーカーでの生産の制約がなくなれば伸びていくと見込んでおり、当社の表示部品売上は目先は減少しますが、機構部品と音響部品の売上を伸ばし、太い柱にしていきたいと考えています。

### ・その他

売上を4.3%程度伸ばしていきます。ペロブスカイト太陽電池が話題となっていますが、売上に貢献するのはまだ先の話となります。今年度は、スタートは小規模ではあるもののセンシングデバイス等を商品化して、今後大きなビジネスに育てていきたいと考えています。

## 2023年度について(2)

---

### その他の取り組み

#### ・PBR1倍に向けた取り組み

これまでのホシデンは投資家への説明という点において足りていない点がありました。半歩でも進めるべく「PBR1倍に向けた取り組みに関するお知らせ」を発表しました。

#### ・部品メーカーとしての課題 - 地球環境問題への取り組み

カーボンニュートラル、RE100をいつ達成するかについて明確にすることは社会からのニーズとなってきました。早急な取り組みを求められているため、当社では今後、循環型社会(Circular economy)や生物多様性の課題に取り組んでまいります。また、CDPスコアアップにも取り組んでまいります。

## 第3部

## 主なQ&A

## 主なQ&A

---

Q1

2023年度の設備投資の増加はどのような用途か？

A1

大きいものは金型投資です。投資時期は年の後半になる予定です。

Q2

PBR1倍に向けてIRの戦略を変えたとあるが、主な変更点は何か？

A2

開示資料(英文を含む)の充実化です。これまで公開していなかった決算説明会資料についてもホシデンのWebサイトに掲載しました。また、会社の方向性を投資家の皆様に共有し、理解いただくため中期経営計画を発表します。詳しくは7月に開示する統合報告書にて発表予定です。